



工事説明会で出た質問とその回答について、回覧板の中で毎回少しずつ掲載していきます。  
 全ての質疑応答はホームページに掲載してありますので、そちらを御確認ください。  
 また、ホームページを見られない方のために質疑応答集(印刷した物)を区民センター等(説明会会場)や市役所、町役場(空港担当部局)にも配架していますので、そちらを御覧ください。

**Q 万一、盛土が崩れた場合、崩れた土砂は千頭ヶ谷池や防災調節池で止まるのか。容量は足りるのか。**

**A 土砂が流れ出たとしても、現在の防災調節池までに十分補足でき、下流に流出することはないと考えています。**

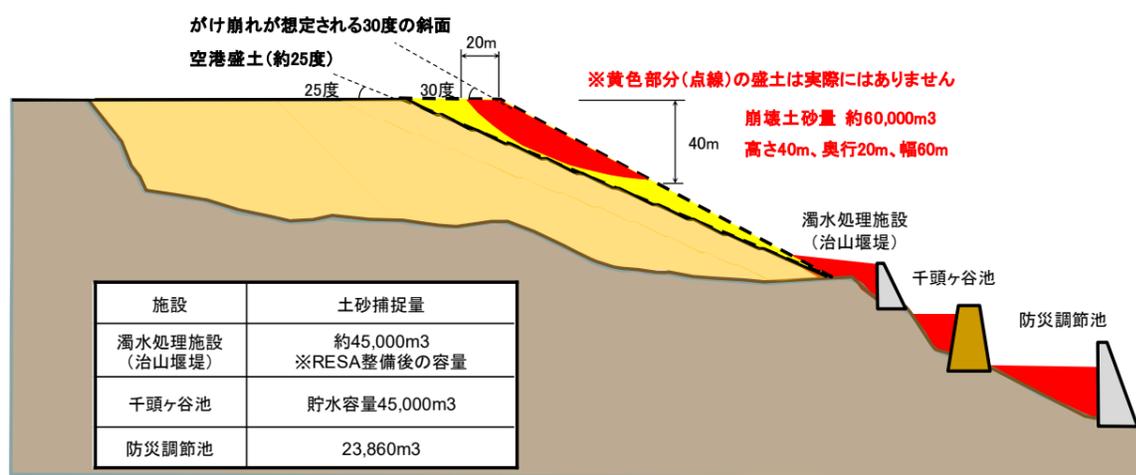
一般的な土の自立できる角度(安息角)は30度とされています。土砂崩れの多くは30度よりも急な斜面の土砂が地震や大雨等の影響で崩れ落ちることにより発生します。富士山静岡空港の盛土の斜面勾配は約25度と緩く、しかも良質土で盛土されているため、盛土体としては物理的に非常に安定しています。

仮に、がけ崩れが想定される勾配30度の斜面があった場合(実際にはない仮定)を考えます。

盛土が崩れるときは円弧状で崩れますが、最大の崩壊土砂量は高さ40m、奥行20m、幅60mと見込まれ、その土砂量は最大約6万m<sup>3</sup>となります(熱海市の土石流災害の崩壊土砂量は約5万5千m<sup>3</sup>と推定されています)。

一方、下流にはRESA整備に必要な濁水処理施設(治山堰堤(えんてい))、千頭ヶ谷池、防災調節池があり、その容量の合計は約11万m<sup>3</sup>です。従いまして、仮に6万m<sup>3</sup>の土砂が流れ出たとしても、現在の防災調節池までに十分捕捉でき、下流に流出することはないと考えています。

【図解】盛土が崩れた場合の検討



仮にがけ崩れが想定される30度の斜面で土石流が発生した場合を想定します。  
 ・最大崩壊土砂量は約6万m<sup>3</sup>と推定されます。  
 ・下流には濁水処理施設、千頭ヶ谷池、防災調節池があり、容量の合計は約11万m<sup>3</sup>です。  
 ⇒防災調節池の下流に土砂が流出することはありません

[RESAは、滑走路端安全区域(Runway End Safety Area)の略称です。]

Topic

**RESA本体工事(下段部)に着手します**

RESA本体工事(下段部)の施工業者が「前田建設工業株式会社」に決まりました。今回の工事は全体盛土量30万m<sup>3</sup>のうち下段部3万4千m<sup>3</sup>の盛土を行う工事です。今回の盛土下段部の工事は令和5年度末の完成を予定していて、残りの盛土上段部の工事は次期工事になります。

今回の工事では補強盛土工という工法を採用することで盛土量や施工範囲を極力小さく抑さえ自然環境への影響を軽減しています。

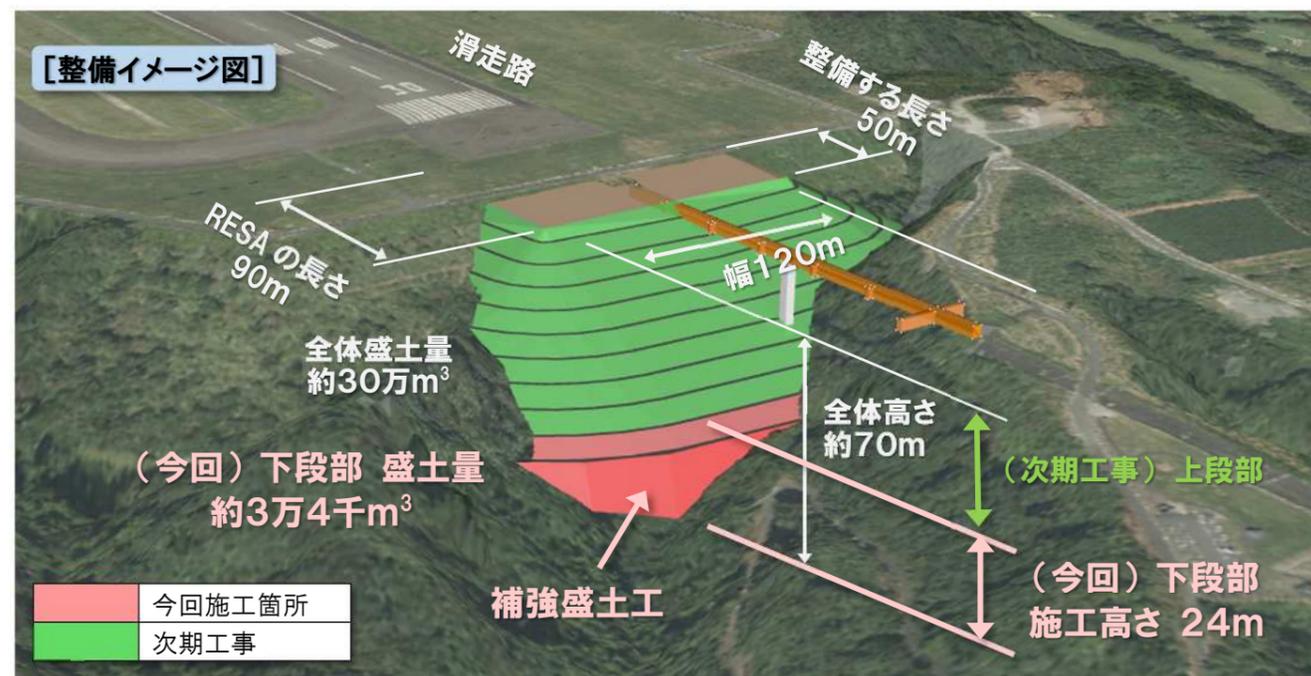
また、今回使用する盛土材は大井川の掘削土砂で川根方面から運搬します(内面の土砂・資材等運搬ルート図参照)。盛土に適した良質な盛土材です。

施工現場及び運搬ルート付近の皆様には御迷惑をおかけしますが、御理解と御協力をお願いします。

【概略工程表】

内容/年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
基本方針検討	■								
調査・設計		■	■	■	■				
仮設・準備工事				■	■				
RESA本体工事					■	■	■	■	■
(うち 下段部)					■ 今回工事(R4~R5)				
(うち 上段部)							■ 次期工事		

【整備イメージ図】



滑走路端安全区域 (RESA)

とは

航空機が離着陸するときに滑走路を超えて走行し停止してしまう「オーバーラン」等を起こした際に航空機の損傷を軽減させるため滑走路の両端に設けられる区域のことです。

富士山静岡空港では空港東側のRESAが新たな国際基準に適合するように拡張工事を行っています。

## RESA本体工事（下段部）の概要

工事名	令和4年度[第34-M2000-01号]静岡空港空港整備事業工事（RESA補強盛土工）
施工業者名	前田建設工業株式会社 静岡営業所
工事場所	島田市湯日・牧之原市坂口地内（RESA工事現場内）
工期	令和4年12月22日 から 令和6年3月15日限り
業務内容	RESA補強盛土工 1式（盛土量合計 V=33,900m <sup>3</sup> ） 盛土材運搬工 V=35,890m <sup>3</sup> 補強盛土工 V=14,200m <sup>3</sup> （高さ17.3m 幅83.8m 奥行14.0m） 盛土工 V=19,700m <sup>3</sup>

### 補強盛土工とは

今回の工事では、「補強盛土工法」を採用しています。この工法は盛土内に「ジオテキスタイル」という補強材を敷設し、盛土材（良質土）と補強材の間の摩擦の力によって盛土の強度を高め、標準法面より急な勾配で盛土を造成することができる工法です。自然環境保全の観点から施工範囲を小さく抑えるため、この工法を採用することとしました。富士山静岡空港の既設の盛土でも採用実績があります。



空港建設時の補強盛土工の施工の様子

### 関連工事進捗状況報告

#### [RESA工事現場]

本体工事に先立ち実施していた工事用進入路工事(施工業者:(株)グロージオ)が1月末で完了予定です。引き続きRESA本体工事(施工業者:前田建設工業(株))が現場着手します。

#### [空港東側用地]

空港東側用地にて植生基盤材製造工事(施工業者:(株)特種東海フォレスト)に着手しました。この工事ではRESA工事で伐採した樹木を再利用するため、伐採木を機械で破碎しチップ化します。

#### [空港西側用地]

原子力防災センター西側で実施していた非常時用進入路工事(施工業者:たむら建設(株)、(株)加藤組)が完成しました。

現在、空港西側用地ではRESAで使用する盛土材を仮置きする場所を確保するため、西側ヤード整備工事(施工業者:大石建設(株))を行っています。

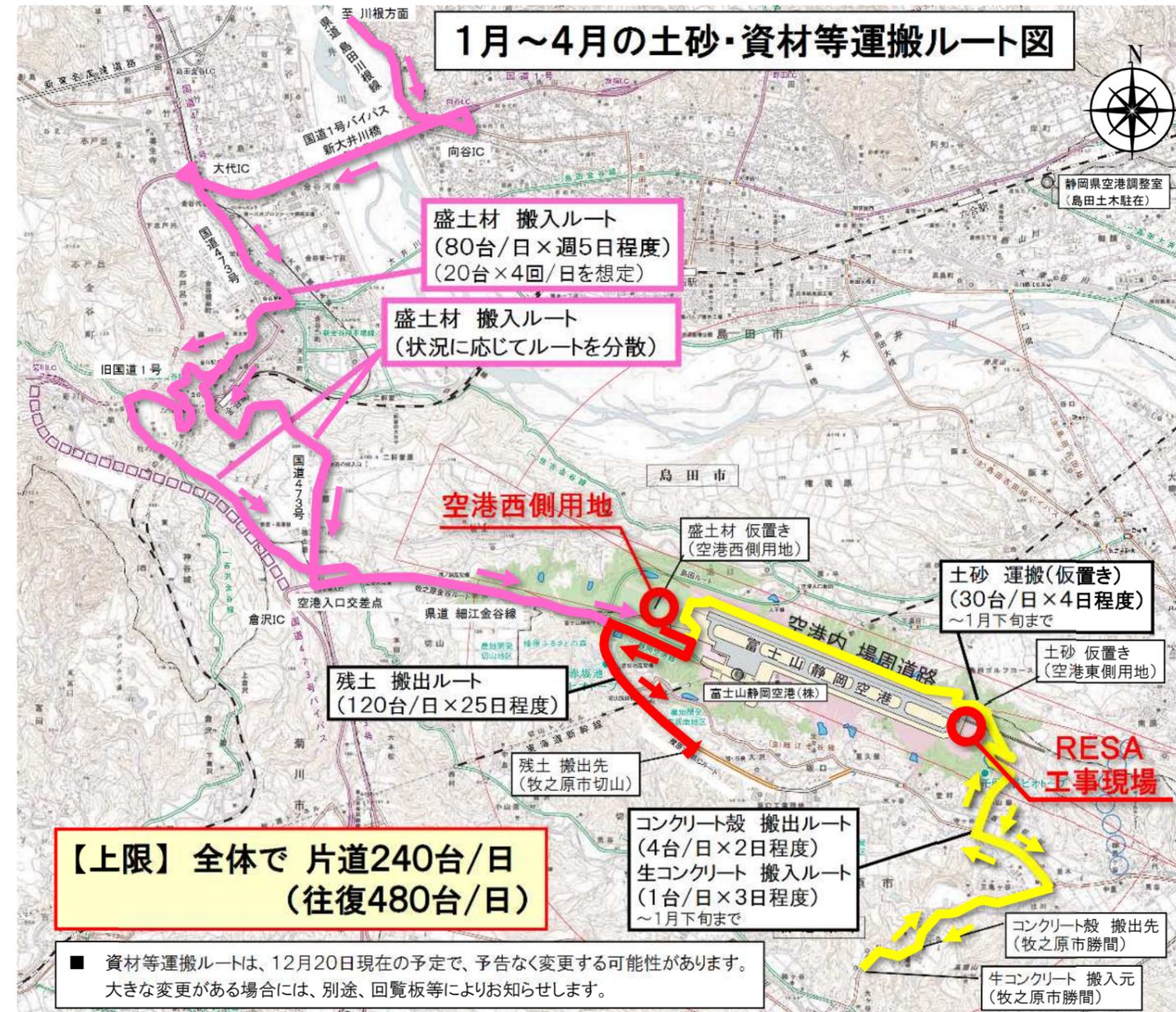
また、12月からRESA本体工事に先行して盛土材を運搬する土砂運搬工事(施工業者:(株)丸紅)に着手しました。



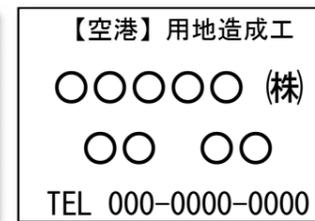
## 1月～4月の土砂・資材等運搬ルート

1月から4月の資材等運搬ルートは下図のとおり予定しています。

土砂・資材等運搬車両には「空港マーク」を付け、騒音、振動、粉じん、迷惑運転等には細心の注意を払い、安全運転に心がけています。運搬のことについてお気づきの点がありましたら静岡県空港調整室まで御一報くださいますようお願いします。



空港の資材等運搬車両(ダンプ等大型車両)は車両の前後に下の赤白チェックのワッペンと工事業者の表示板を掲示しています。



### 通行台数(ダンプ等大型車両) 凡例

台数	通行経路	未確定12/1時点
150台/日以上 (往復300台/日以上)	■	■■■■■
~150台/日 (~往復300台/日)	■	■■■■■
~100台/日 (~往復200台/日)	■	■■■■■
~50台/日 (~往復100台/日)	■	■■■■■
1~20台/日 (往復2~40台/日)	■	■■■■■

※台数は、片道の日当たり延べ台数(例 5台×5回/日=25台/日)  
※往復は、台数×2(積み荷+空積)(例 25台/日→往復50台/日)